

基調講演

虐待の影響について考える ～子どもたちが力強く成長する ためにできること～

令和元年度

「児童虐待防止推進月間」標語

令和元年度「児童虐待防止推進月間」標語の全国公募を行い、4,804作品（有効応募総数）の中から、厳正な選考を行った結果、次の作品が最優秀作品として決定いたしました。

**189 (いちはやく)
ちいさな命に 待ったなし**

【最優秀作品作者】

石居 くるみさん（東京都）の作品

講師

Olga R. Trujillo (オルガ・R・トゥルヒーヨ) 氏

米国弁護士、コンサルタント



略歴

1983年 University of Maryland - 1983 Bachelors in Political Science (メリーランド大学 卒業)
1988年 George Washington University Law School - 1988 Juris Doctor degree (ジョージ・ワシントン大学法科大学院卒業 法学博士)
1990年～2001年 United States Department of Justice (米国法務省)
2007年～2010年及び
2016年～2018年 Casa de Esperanza (カサ・デ・エスペランサ)
2001年～現在 Olga Trujillo Consulting, Inc.(オルガ・トゥルヒーヨ コンサルティング)
2018年～現在 Latinos United for Peace & Equity (ラティノス・ユナイテッド・フォー・ピース&エクイティ)

著書等

The Sum of My Parts - New Harbinger Publications 2011、「The Sum of My Parts」(2011年)、A Handbook for Attorneys: Representing Domestic Violence Survivors Who Are Also Experiencing Trauma & Mental Health Challenges(2012年)、Preparing Survivors for Legal Proceedings (2013年)、「わたしの中のわたしたち」(日本語版)(2017年)、Enhancing Legal Advocacy through a Trauma Informed Approach(2019年)、Enhancing Trauma Informed Courts(2019年)、Creating Trauma Informed Victim Services (2019年)

通訳

中島 幸子 (なかじま さちこ) 氏

NPO法人レジリエンス代表、米国法学博士、米国社会福祉学修士

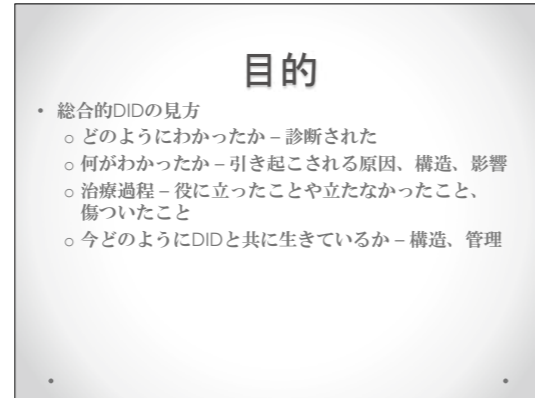
伊藤 聖美 (いとう まさみ) 氏

元ジャパンタイムズ記者

Olga R. Trujillo 氏 資料



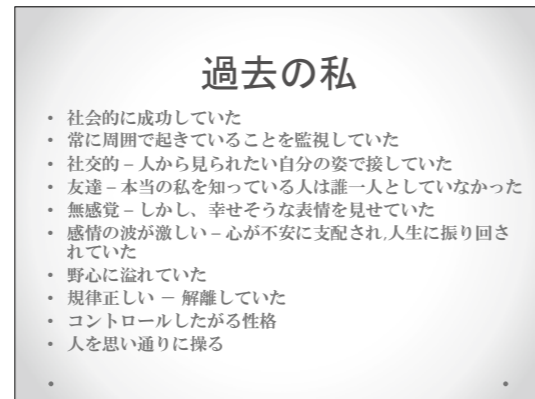
1



2



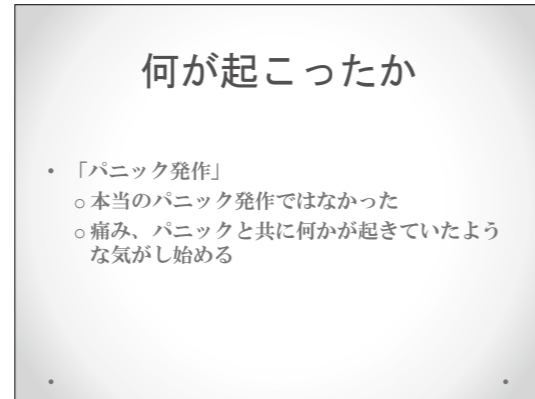
3



4



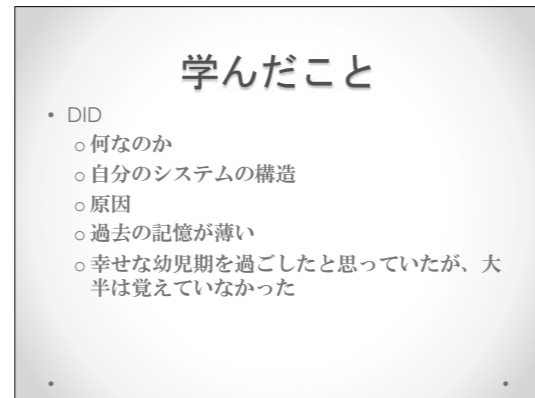
5



6



7



8



9



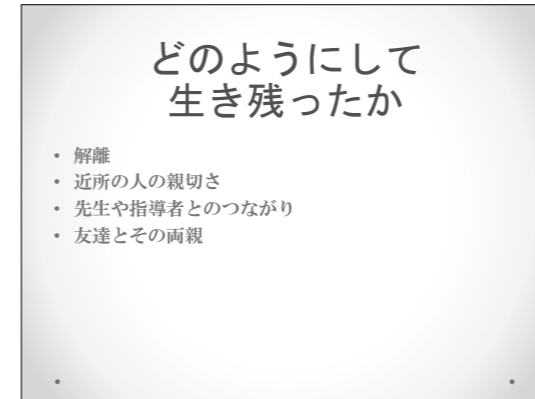
10



11



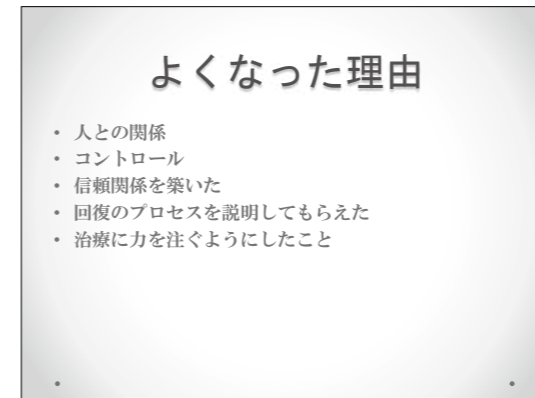
12



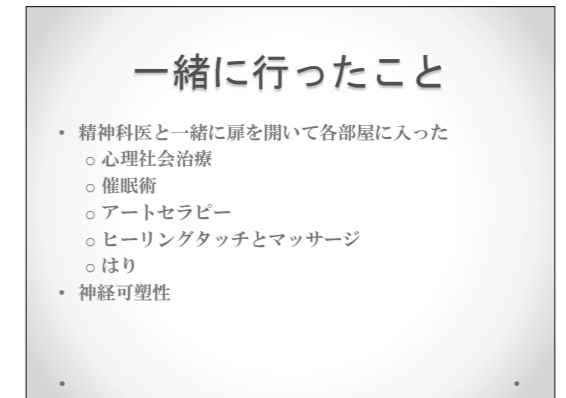
13



14



15



16

役に立ったこと

- 私にとって重要なことを取り入れた
 - 運動
 - 芸術
- ホリスティック
- 自分が主導できるようになり、セラピストが任せてくれた
- 投薬

17

その結果

- 多くのパーツ・人格が共存する
- 自分について理解 - 私は変わっていないが、以前と比べて自分についてよりよく理解できるようになった
- 記憶になかったことを知る - すでに一度生き抜いた
- 内側から自信を築いた
- 非常に想像力に富んでいる
- ピアサポート

18

役に立たなかったこと

- 内側に踏み込まれる
- 防衛的になる
- 批判される・批判的になる
- 50分間のセッション

19

今わかっていること

- セラピー的治療が効いた
- 幸せで充実した毎日を過ごすことができるということ
- DIDは切り盛りできるし、回復も可能である
- 脳内ネットワークを再構築することも可能

20

周囲の人ができること

- 暴力がもたらすトラウマについての情報提供
- 信頼関係の構築
- 理解のために様々な方法を用いる
- トラウマの反応について話し合う機会を提供
- 資源や紹介を提供
- 勝手に踏み込まない

21

回復力（レジリエンス）

厳しかったり、脅迫的な状況の中でも適応ができる能力

防護要素：回復力を促進

- 保護者や他に気にかけてくれる大人たちの反応
- 社会的援助・社会構造
- 個々の能力 - 人としての価値、賢い、想像力、何かに秀でた力
- 他人と肯定的に接する能力

22

解離

23

どう感じるか

- 精神的・身体的に苦しむ
- うつ病と共に発生することが多い
- 解離とは必ずトラウマとなる出来事に対処するための方法の一つ
- このような気持ちにさせられる：
 - 孤立感
 - 疎外感
 - 他人とは違ってしまった

24

どう感じるか

続き

- 以下の気持ちで取り残された
 - おかしくなってしまった
 - 自分に問題がある
 - 神経が逆立つ、不安、落ち着かない気分
- 一番基礎的な日常の生活に支障が出る

25

外から見える解離

- 虚ろな表情、虚空を見つめている
- 感情の起伏がない態度
- つまらなそう、興味がなさそう、または注意払っていないような態度
- 落ち着きがない、集中できない

26

外から見える解離

続き

- 一点を見つめている、時間や周辺環境に対する感覚を失う
- 怒り、興奮またはイライラする
- 話題があちこちに飛ぶ - 直線的でない、論理的でない話し方
- おぼつかない足取りで歩く、未解明のあざ

27

解離は内面でどう感じるか

- 感情が麻痺する
- 時間の感覚が遅くなる
- 非現実感または疎外感
- 思考のスピードが上がる、非常に早いスピードで頭が回転する
- 無感覚、またはコントロール不能な虚ろな気分

28

解離は内面でどう感じるか

続き

- 身体から切り離された感覚
- 人や周辺環境に対する認識が変わる
- ときおり何もできないと感じていた
- 思考をコントロールできない
- 疎外感をコントロールできない

29